

令和5年度 石川県立金沢北陵高等学校第27回卒業証書授与式 式辞

本日ここに、多くのご来賓の方々並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、石川県立金沢北陵高等学校第27回卒業式を挙行できますことは、誠に大きな喜びであります。心より御礼申し上げます。

能登半島を震源地とした大きな地震が発生したのは、今から2か月前の1月1日のことでした。改めて、犠牲になられた方々に心からお悔やみ申し上げるとともに、被災された全ての方々にお見舞い申し上げます。

今、卒業証書を授与しました147名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは「不撓不屈」の精神を胸に、標高68mの高台にあるこの金沢北陵高校に通学するため、夏の猛暑の日も冬の大雪の日も、S字坂やW坂と名付けられた急な坂道を3年間登り続けました。また、勉強や部活動、学校行事などに全力で取り組み、自らを鍛え、成長し、本日、晴れて卒業の日を迎えました。皆さん、本当によく頑張りましたね。私は、皆さんを誇りに思っています。

そしてこれは、皆さん一人一人の努力の成果であると同時に、これまで、愛情を持って支えて来られたご家族の皆様や先生方、さらにはご支援いただいた地域の方々など、多くの人達のお陰でもあります。感謝の気持ちを忘れず、今後はお世話になった方々への恩返しの意味も込めて、自分の定めた道に邁進してもらいたいと思います。

さて、皆さんも知っている通り、この度の地震によって、本校は、CS棟前の地盤が崩落し、校舎下の支柱がむき出しとなったり、皆さんが通学に使っていたW坂の階段が土砂に流されたりするなどの大きな被害を受けました。そして、高校生活の最後の1か月が自宅待機となり、学習の集大成となる「テーマ研究」の全体発表会も中止となってしまいました。

この「テーマ研究」全体発表会は、皆さんの一年間の研究成果を、後輩たちに向けて披露し、先輩としての手本を示すとともに、自分たちに続いて頑張ってくれとエールを送るとても大切な3学期の行事です。先生方も一生懸命、日程を調整し、発表会の開催に向けて努力してくれました。しかし、学校を再開させることができず、発表は、代表が撮影した動画を1・2年生が視聴するという形になりました。

私も皆さんの代表が作成した13本の動画を視聴しました。地域貢献を目的とした「東原町活性化プロジェクト」や「森本地区活性化プロジェクト」ではボランティアやイベントの開催に取り組んだ様子が生き生きと伝わってきました。また、「生活を豊かにする福祉用具開発プロジェクト」では福祉、工業、ビジネスの各系列がそれぞれの得意分野を生かし、がん患者の食生活を助ける福祉用具の開発に挑みました。これらの取り組みは、ひたむきにボランティアに打ち込んだ団体等に贈られる「北國あすなろ賞」や日本福祉大学主催の「福祉用具アイデアコンテスト」の優秀賞に選出されましたね。皆さんの取り組みが世の中に認められ、とてもうれしく思いました。

その他にも「介護職員の減少の理由と対策」「遊びが子どもに与える影響とは?」「北陵高校周辺の植生と今後の予測」「台風の発生をコントロールするには」「スポーツ選手に信頼される理学療法士・スポーツトレーナーはどんな人か。またどんな人が向いているのか」「食生活を変えることで目の疲れは軽減されるのか」「高校生における自殺の原因を占めるのはストレスであるのか」「家にある物で簡単に電気をつくる方法は?」「マカロンを失敗せずに作るには?」「理想の肌を作るには～食べ物を中心として～」など、社会的な課題や生活を便利にする工夫、自然環境や自分の進路に対する興味など、様々な視点からの研究がありました。どの研究も大変素晴らしく、時間があれば、全てにコメントしたいところです。

そして保護者の皆様に申し上げます。今ご紹介した研究はほんの一部です。お子様たちは、このように答えのないテーマを自ら設定し、インターネットや現地調査などにより情報を収集し、見えてきた課題の解決に向けて考察を続けてきました。こうして身に付けた、主体性や思考力、判断力、表現力、情報収集力、コミュニケーション能力は、先の予測が難しいと言われる現代社会を生きる上において、とても重要なものであります。今後、お子様たちはこうした北陵高校での学びを生かし、自らの手でたくましく未来を切り拓いて行かれることと思います。保護者の皆様にはこれまでいろいろなご苦勞がおありだったことと拝察いたしますが、お子様たちは立派に成長され、自立への道を確実に歩んでおられます。

卒業生の皆さんは「高校時代」というステージから、今後、大学や短大、専門学校、また企業や公務員など、次のステージへと進んでいきます。iPhone で知られるアップル社の創業者である、スティーブ・ジョブスは「情熱がたっぷりなければ生き残ることはできない。それ(情熱)がないと人はあきらめてしまう。我慢さえできればうまくいったも同然なんだ」と言っています。これから皆さんはそれぞれの道で、未来に目を向けて新しい挑戦をしていくことでしょう。皆さんには無限の可能性があります。これからの人生、本校で培った力を存分に発揮し、情熱を燃やし続け、自分の選んだ道を堂々と歩いて行ってください。皆さんはそれができる人物であると私は確信しています。

今日の卒業式は、皆さんの思い出がたくさんつまった、この校舎で開催させていただきました。本校は今、震災からの復興の途中にあります。この2か月間、通学ルートをはじめ、生徒たちの安全・安心のために大きな変更をたくさんしてきました。これからも多くの方々のご支援を受け、決して立ち止まることなく、これまで以上によりよい学校づくりに努めてまいり所存です。本校もまた新たなステージに向かおうとしています。皆さん。本校の卒業生として、こうした状況にある北陵高校が今後どのように復旧・復興を果たしていくのか注目してしてください。そして、それぞれの道でさらに大きく成長し、後輩たちを応援し、母校を応援してくれることを切に願っています。

最後に、これまで賜りました保護者の皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げますとともに、希望に満ちてこの金沢北陵高等学校を巣立っていく皆さんの前途に幸多からんことを心よりお祈りし、式辞といたします。

令和6年3月1日 石川県立金沢北陵高等学校長 中村 悟